第3回　健康起因事故対策協議会　2016･12･22

資料4

ハイリスク者の見える化と フォローアップの必要性について

NPO法人ヘルスケアネットワーク（OCHIS）
副理事長　作本　貞子

OCHISの事業概要

セミナー・啓発・執筆・SAS対策・講演等

第11回OCHISセミナー(2016.11.11)

テーマ：健康起因事故対策をサポートする
データに基づいたハイリスク者の見える化について

安全と健康を推進する協議会両輪会
（第19回【2016.5.18　東京開催】）

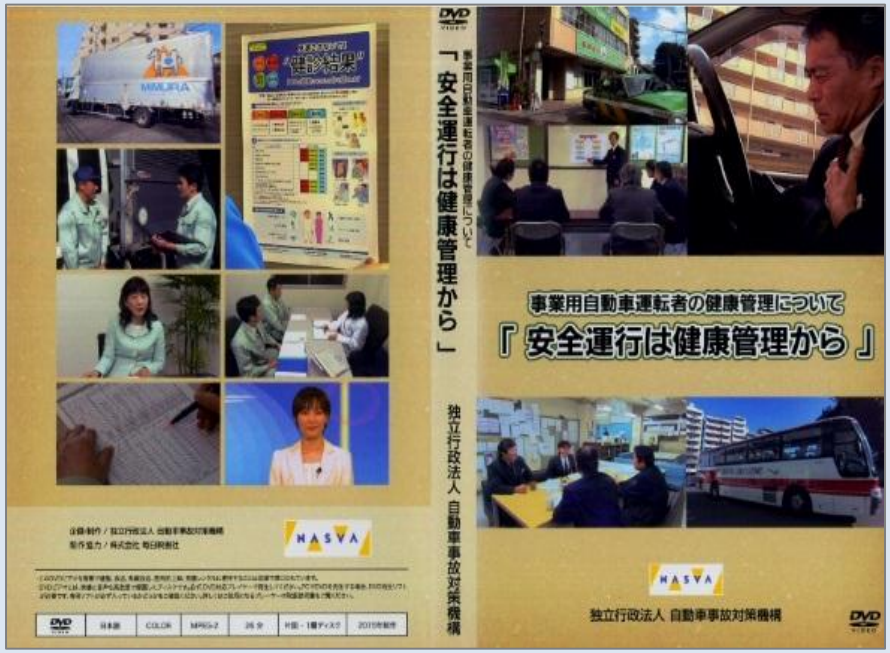
運輸業の安全と健康支援を目的に

行政・協会・事業者・医療機関のすき間に存在している

NPO法人ヘルスケアネットワーク　作本　無断転載禁止

改訂版 トラック運送事業者のための健康起因事故防止マニュアル
2016年1月 （公社）全日本トラック協会発行

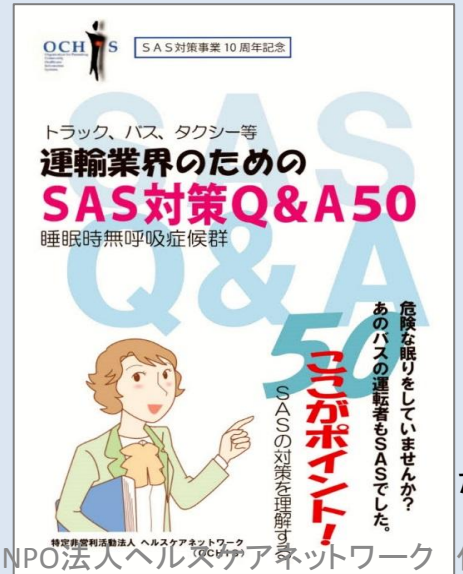
健康管理で事故防止ポスター（11種類）
最新作 「認知症対策」



（独）自動車事故対策機構（NASVA）
事業用自動車運転者の健康管理について
「安全運行は健康管理から」DVD　作本出演

一般講習用テキスト
(P85～102　作本担当)

（独）自動車事故対策機構（NASVA）
運行管理者指導講習用テキスト（2015）



●SAS対策
（スクリーニング検査とフォロー）

トラック、バス、タクシー等運輸業界の
ためのSAS対策Q＆A50（2015年発行）

●セミナー講演実績

年度	講演回数	参加人数
25年度	22回	1764人
26年度	25回	2476人
27年度	19回	1629人

NPO法人ヘルスケアネットワーク　作本　無断転載禁止

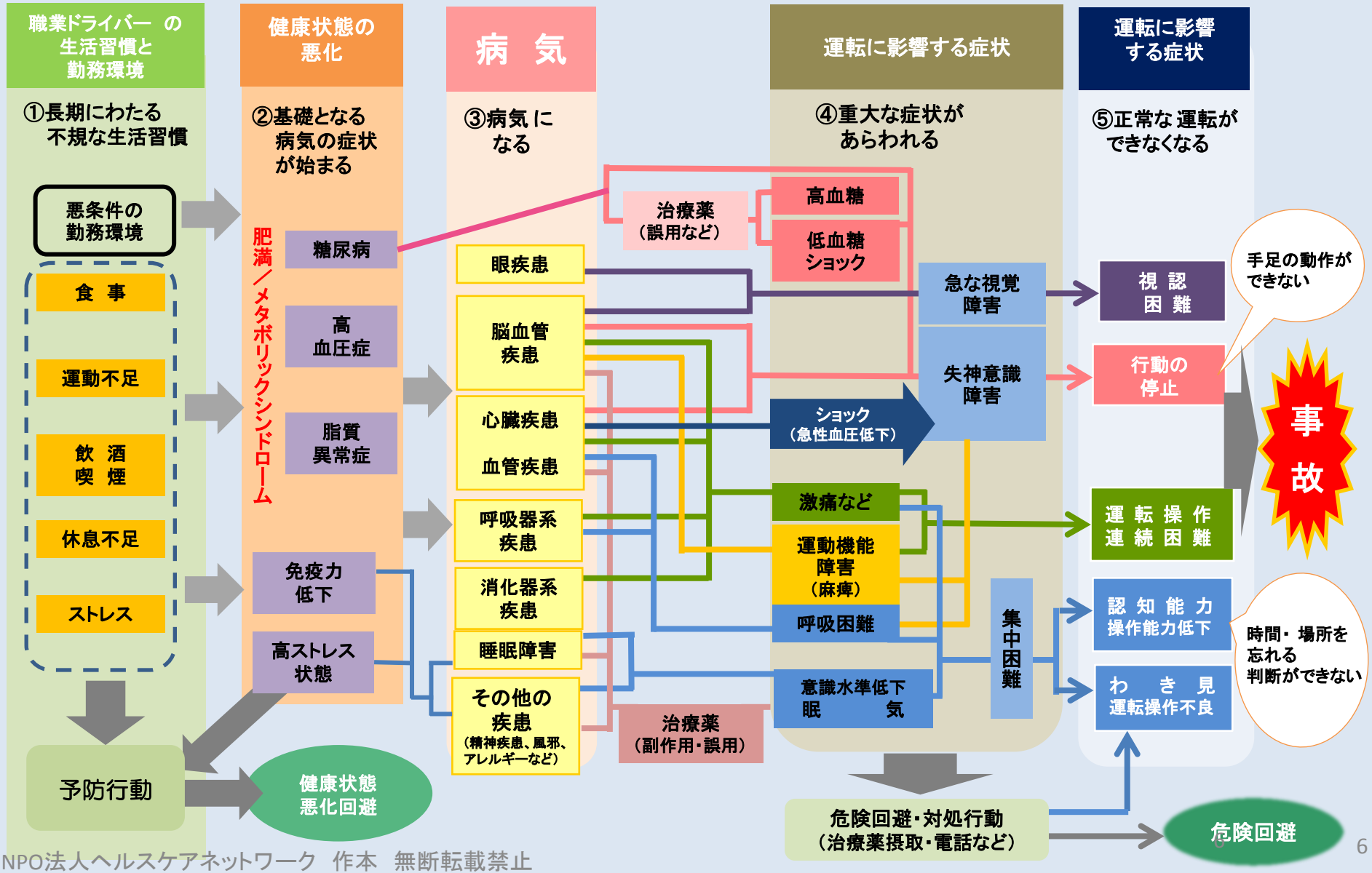
ハイリスク者の見える化と
フォローアップの必要性について

国交省の指導

①病気発生のメカニズム

出典：国土交通省「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」（平成26年4月改訂版）を編集

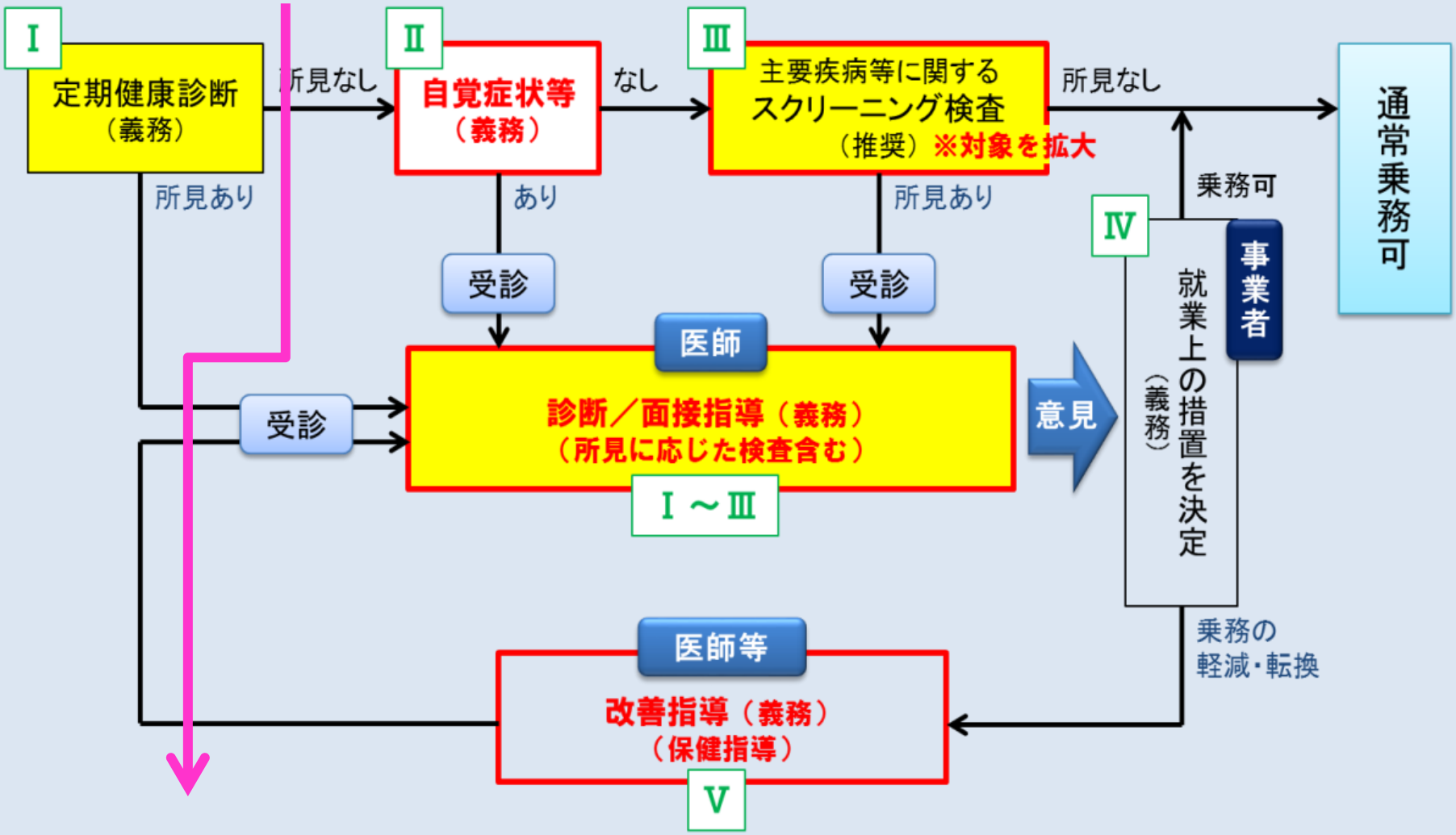
早期の段階で対策を講じることで発症の未然予防が可能。あるいは増悪を防止できる病気と事故発生までのメカニズム



NPO法人ヘルスケアネットワーク 作本 無断転載禁止

②受診だけでなく就業上の措置までが義務

出典：国土交通省「事業用自動車の運転者の健康管理マニュアル」（平成26年4月改訂版）を編集



ハイリスク者の見える化と
フォローアップの必要性について

事業者の困りごと

中小企業の割合は99%（トラック）　※中小企業基本法（300名未満）による

トラック運送事業の規模別事業者数（平成27年3月末現在、単位：者）

車両規模別

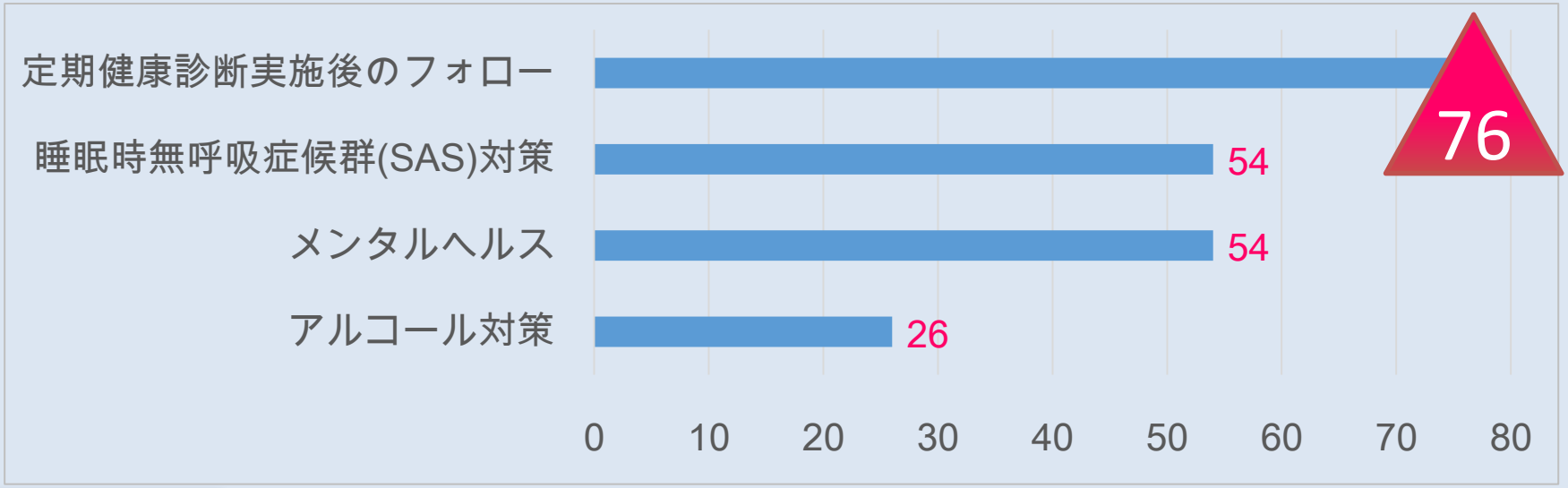
業種＼両	10以下	11～20	21～30	31～50	51～100	101～200	201～500	501以上	計
特別積合せ	17	10	16	21	55	75	50	36	280
一　　般	30,389	13,035	5,807	4,326	2,687	721	191	61	57,217
特　　定	430	33	9	6	3	0	1	1	483
霊　　柩	4,502	115	28	6	5	1	0	0	4,657
計	35,338	13,193	5,860	4,359	2,750	797	242	98	62,637
構成比(%)	56.4	21.1	9.4	7.0	4.4	1.3	0.4	0.2	100.0

従業員規模別

業種＼人	10以下	11～20	21～30	31～50	51～100	101～200	201～300	301～1,000	1,001以上	計
特別積合せ	7	5	4	22	55	57	39	55	36	280
一　　般	26,180	14,122	6,387	5,130	3,607	1,326	265	157	43	57,217
特　　定	384	65	13	10	8	1	1	1	0	483
霊　　柩	4,135	283	100	71	36	17	9	3	3	4,657
計	30,706	14,475	6,504	5,233	3,706	1,401	314	216	82	62,637
構成比(%)	49.0	23.1	10.4	8.4	5.9	2.2	0.5	0.3	0.1	100.0

事業者における健康管理推進上の課題
①トップは定期健康診断のフォロー

（OCHISセミナー・両輪会でのアンケートより集計）



健康診断受診前

- ✓ 健診機関が見つからない
- ✓ 交代勤務でまとまって受診できないので、健診バスの手配が出来ない。
- ✓ 医療機関の受診時間が合わない。
- ✓ 少人数や遠隔地の営業所では受ける機関がない

健康診断受診後

- ✓ 健診結果フォーマットがバラバラで、見ても分からない。受けるだけで精一杯。
  事後フォローまでは出来ない。
- ✓ 産業医が見つからない

その他

- ✓ 他社はどうしているの？
- ✓ 悩みの共有や共同企画など出来ることはないのだろうか？
- ✓ 法律や規定が刻々と変化するのが対応できない。
- ✓ 専門的な知識を持ち合わせていない。
- ✓ できれば信頼の出来る専門機関にまる投げしたい。
- ✓ 厳しい経営のため新たな費用の捻出ができない

事業者における健康管理推進上の課題
②定期健康診断のフォローが困難な理由と現状

- 受診させるだけで精いっぱい。
- 拠点が全国に点在しているため、健康診断結果の基準値が医療機関によりバラバラ。
- 紙ベースでの報告書が多い。
- 忙しすぎて手が回らない。
- 専門的で手がつけられない。
- 個人情報なので、どう扱っていいかわからない。
- 個人の健康状態が点呼時に活かされない。

⇩

定期健康診断のフォローは難しい

⇩

ドライバーの健康状態が見えていない

⇩

事業者のみで健康管理を実践するのはハードルが高い

事業者における健康管理推進上の課題
③産業医契約は1割に満たない

【運送業の健康保険組合が実施した「産業医契約の有無」についての調査】

▼調査対象：1087社
回答：467社の内　産業医がいる73社（15.6%）
＊調査対象社数1087社の6.7%

【理由】選任義務がない50人未満の事業所が大部分

健康面における**サポート体制の不十分さが顕著**

何とかできないか

●事業者が「できない・困っている」と感じる部分を業界全体で支えて実践的にサポートしていく方法はないか

●企業が自ら行うことを想定した（管理者支援）向けのシステムやツールがない

↓

運輸に特化したフォロー対策が不可欠

ハイリスク者の見える化と
フォローアップの必要性について

実践的フォローの必要性と活用

『見えなければ何も始まらない！！』

データベース化によるハイリスク者の見える化

健診結果の
データベース化

総合的助言・指導

【運輸事業者】

健康
診断

SAS

残業時間・ＭＣＩ
・事故歴・その他

◆ハイリスク者のピックアップ
◆再検査・精密検査等の受診指導
◆点呼時の活用

安全・健康対策への活用

【OCHISセミナーにて提案】

何が見えるか？

- «死の四重奏»項目である、肥満・高血圧・糖尿病・脂質異常の該当者が見える。

  脳・心臓疾患や生活習慣病に関係する、ハイリスク者への指導と、労災二次健診への誘導など制度の有効活用がスムーズになる。

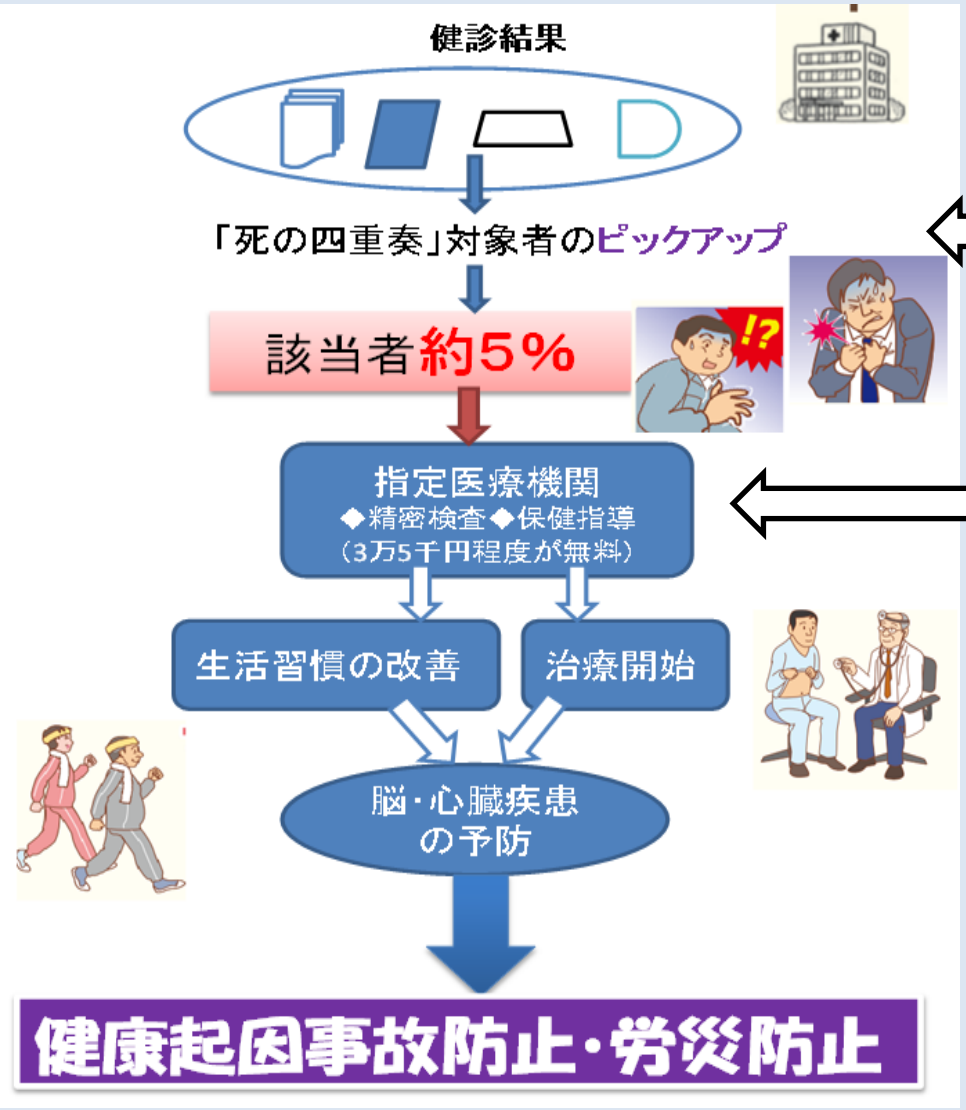
- 定期健康診断の項目に睡眠時無呼吸症候群（SAS）などのスクリーニング検査項目を付加し、さらに運輸ならではの項目を加えることで、過重労働に伴うリスクや運行管理上のリスクが見える。

例えば、

1.軽度認知障害(MCI)　2.事故歴　3.時間外労働　4.適性診断など

労災二次健診活用イメージ

（厚生労働省が脳・心臓疾患の予防対策として導入した制度）



システムで見える化

労災二次健診（無料）の受診指導

運用と効果

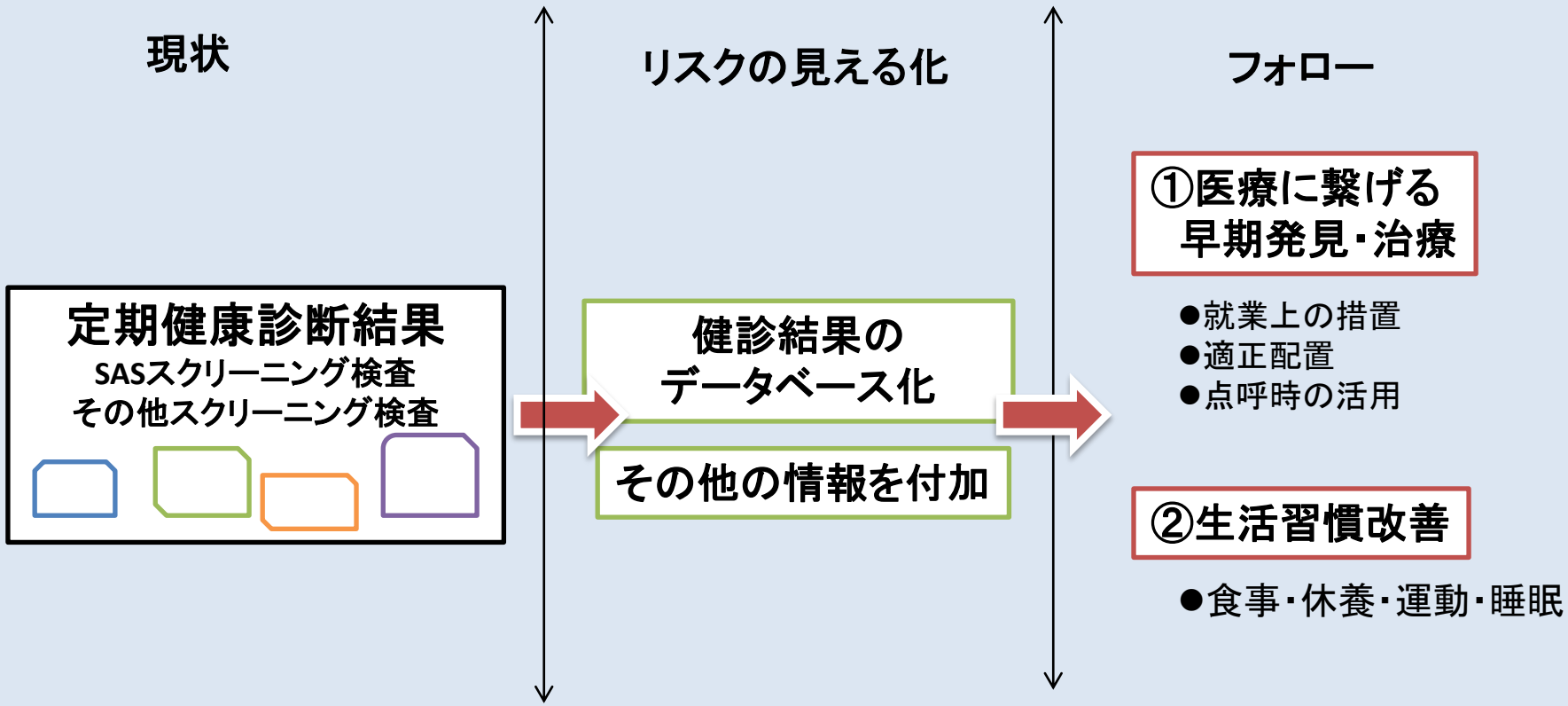
- データの経年管理により、変動（改善・悪化）等が明確になり、注意喚起等に繋がる。
- 拠点別・年齢別・業態別等の区分による疾病の傾向分析と特徴的対策の明確化。
- 人事労務と運行管理（縦割り）間の情報の共有化による、安全・健康管理の総合的、効果的推進が可能になる。

健康管理
（人事･労務）

⇔

安全対策
（運行管理者）

「見える化」から活用へ



- 中小企業事業者が自ら指導できる仕組み
- 専門的な知識がなくても指導対象者が簡単にピックアップできる

活用のイメージ

第１ステップ

定期健康診断（義務）

睡眠時無呼吸症候群（SAS）（推奨）

○受診　○生活指導等の指導履歴
○死の四重奏チェック

※任意項目

MCI	残業時間	事故歴	適性診断	＊フリー

第２ステップ

運行データとのリンク

改善へのアプローチ履歴（健康相談・栄養指導・セミナー・講習等）

効果測定（調査・分析）⇔　PDCA

事業者の期待【OCHISセミナーのアンケートより】

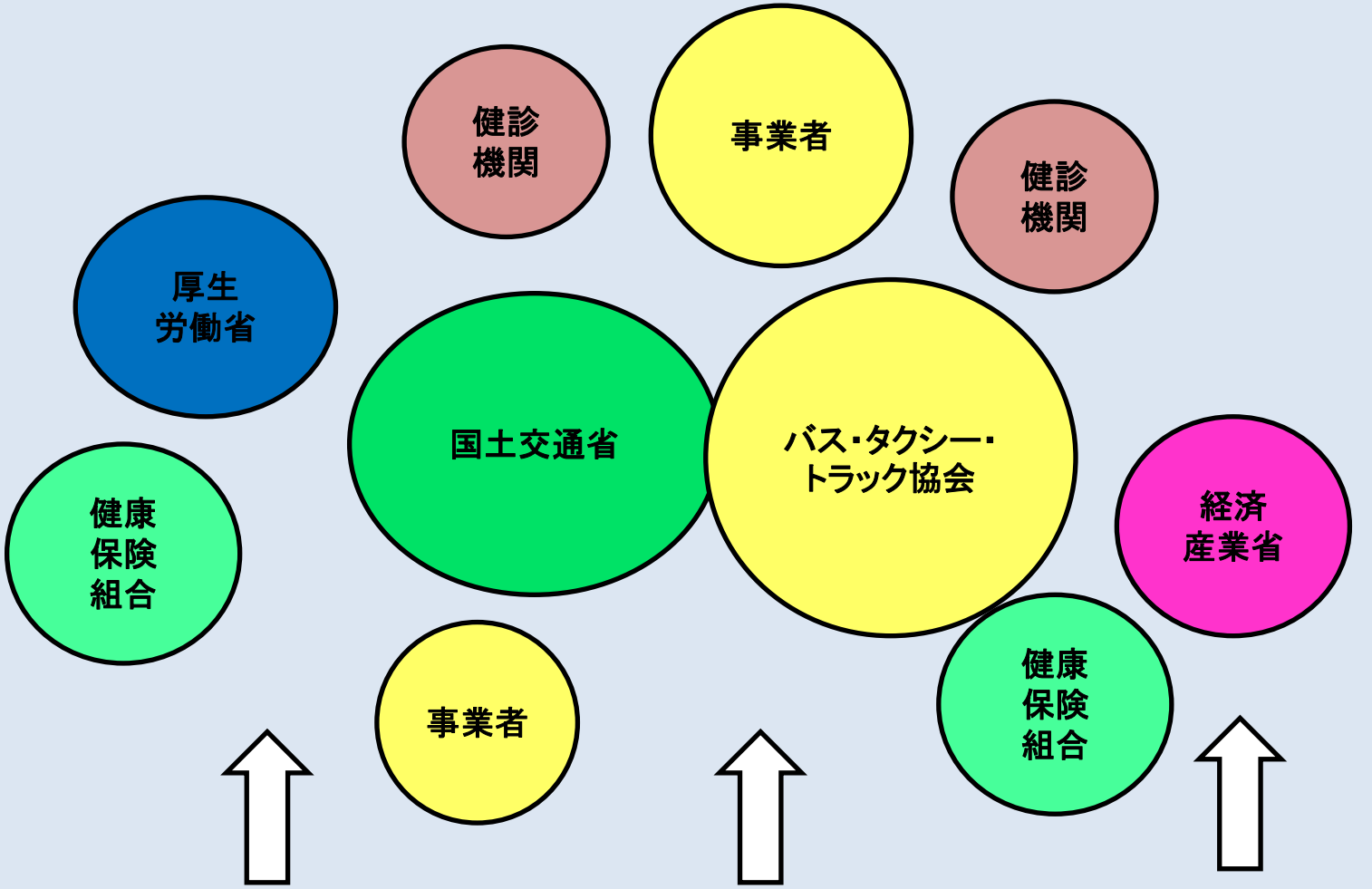
◆「データに基づいたハイリスク者の見える化 」の講演は参考になりましたか？
（複数回答）

① 大変参考になった	14
②参考になった	23
③期待外れであった	0
④もう少し詳しく知りたい	5
⑤健診結果システムの活用を検討したい	4

・まずは走り出していただき、その後、不足分についてはフォローアップで。
・機械的なデータ処理と、その検索が主であった。二次健診に行かない等の人的部分がノータッチである。今後に期待。
・現場の運行管理が扱いやすいものになれば幸いです。
・運用しやすく、安価であれば是非検討したい。
・簡単そうですが、「言うは易し」で、実際は難しい部分もあろうかと思いますが、がんばってください。
・主観や先入観で指導するのは限界もあるし、危険。客観的に見える化することで、公平で「思い」を排除した指導が可能になる。
・当社においても同様の悩みを抱えており、改善が必要であるから大変参考になった。
・データを点呼にどう活用していくかが課題。
・下請け業者さんに導入できたら…と思います。労災二次健診の活用をしっかりしたい。

業界の底上げと社会の安全・安心を目指した

新しい仕組みづくりの検討



提案・マネージメント